

# 花巻市 博物館

目次／P 1 共同企画展「山の暮らし」／P 2-3 テーマ展「大集合！花巻人形展」／P 4-5 共同企画展「山の暮らし」／P 6 活動レポート／P 7 館長コラム・インタビュー／P 8 花博コレクション



花巻市  
博物館 HP



facebook



Instagram  
開設！

## だより

2022.12  
No. 68



花巻市は中央を北上川が流れ、豊かな田園地帯を有し、穀物以外にもリンゴやブドウなどの果樹栽培も盛んな地域です。歴史を辿ると、輝かしい功績を遺した先人たちを輩出した土地でもあります。しかし、この地に暮らしてきたのは、こうした平地に住まう人々だけではありません。奥羽山脈と北上高地に挟まれた花巻は、総面積の半分以上を山林が占める土地です。山を生業の場とし、山と暮らしてきた人々があり、平地に住まう人々も山からの恵みを楽しんで暮らしてきました。

花巻市博物館では、令和4年12月10日（土）から令和5年1月29日（日）の期間で、共同企画展「山の暮らし」を開催します。本展では、山を生業の場としてきた人々が使用した様々な道具やかつての写真などから、山を生業の場とした人々に焦点を当て、花巻での山の暮らしに迫ります。

令和4年度テーマ展

# 大集合！ 花巻人形展

令和5年2月18日（土）～5月7日（日） \*会期中無休\*

花巻人形は、江戸時代後期に盛岡藩領花巻で誕生した土人形です。仙台の堤人形を伝習し制作が始まったといわれ、独自の発展を遂げました。花巻人形は仙台の堤人形、米沢の相良人形とともに「東北三大土人形」と称されています。

花巻人形の特徴には、題材の豊富さや、一つの題材における形状や様式の違いによって数多くの種類があることが挙げられます。さらに、彩色に赤色が多く用いられ、そこに桜や梅・牡丹の花模様が色彩豊かに描かれていることも特徴の一つです。

当館では、現在約4,500点の花巻人形を収蔵しており、同人形愛好者のおかげで毎年その数は増え続けています。

今年度の展示では、内裏雛をはじめ信仰・縁起物、歴史上の人物、風俗、動物といった、さまざまな種類の花巻人形を一挙に「大集合」させ、壮大な花巻人形の世界へと誘います。



## ～ 内裏雛 ～



花巻人形雛壇（令和3年度展示の様子）

花巻地方の雛祭りに、花巻人形は欠かせないものでした。雛壇には自宅にある雛人形と花巻人形を一緒に飾り、子供の成長を祝う家庭が多くあったといわれています。



## ～ 信仰・縁起物 ～

花巻人形には、福を招くとされる縁起物にちなんだ人形が多く見られます。縁起物の中でも特に人気が高いのは、福の神の代表ともいえる恵比寿と大黒天です。いつの時代も変わらず家族の幸福を願い、家業の向上を願ってきました。



後列：鯛抱き恵比寿、宝船、大黒天  
前列：達磨、福助



## ～ 歴史上の人物 ～

歴史上の人物を題材にした人形も多く見られます。とくにも江戸時代には平和な日々が続いたことで庶民文化が開き、神話や歌舞伎が盛んに演じられ、歴史上の人物をモデルにした武者人形が多く作られるようになりました。花巻人形には、こうした歴史上の人物に対する尊敬と憧れが詰まっています。



後列：平敦盛、加藤清正、熊谷直実  
前列：弁慶、武将



後列：猫、かま猫、犬  
前列：鶏、ねずみ唐辛子



～ 風 俗 ～

花巻人形をはじめとする郷土人形の最盛期は、江戸時代の町人文化の成熟期である文化・文政期(1804～1830)頃とされています。そのため、花巻人形には魚屋などの商人や女性の理想像としての花魁、そして力士(谷風、秀の山、梅ヶ谷)など、江戸時代の風俗を表現した人形が多く見られます。



～ 現代の花巻人形 ～

花巻人形の制作には、太田家・苗代澤家・古館家・照井家・上野家などが携わっていたとされています。昭和30年代に一度途絶えましたが、昭和49年(1974)に平賀家(現、平賀工芸社)が花巻土人形として再興し、現在も花巻を代表する民芸品として作られ続けています。

(市史編さん室 因幡敬宏)



子守り、力士(谷風)、魚屋



～ 動 物 ～

花巻人形の中には、人間の生活に深い関わりをもつ動物たちも題材になっています。花巻人形で多く見られる動物は、犬と猫と鶏ですが、その他にも牛や馬、鼠、猿、兎、雀など多くの動物もつくられています。動物が題材の人形はかわいらしく作られています。動物が題材の人形はかわいらしく作られています。動物が題材の人形はかわいらしく作られています。動物が題材の人形はかわいらしく作られています。

◆ 関連イベント ◆

- (1)特別講座「花巻人形の研究史にみる評価と今後の課題」  
日 時 令和5年3月4日(土)  
13:30～15:00  
講 師 高橋信雄氏(花巻市博物館前館長)  
場 所 講座・体験学習室  
定 員 30名
- (2)ギャラリートーク  
日 時 令和5年2月23日(木・祝)  
13:30～14:00  
場 所 花巻市博物館 企画展示室
- (3)ワークショップ「花巻人形絵付け体験」  
日 時 令和5年3月26日(日)  
13:30～15:00  
講 師 平賀恵美子氏(平賀工芸社)  
場 所 講座・体験学習室  
材料費 1,600円～  
(選ぶ人形によって値段は異なります)  
定 員 20名

※(2)は申込不要ですが、入館料が必要です。  
※(1)、(3)は開催日の1か月前より受付を開始します。

問合せ先 花巻市博物館  
☎ 0198-32-1030 (8:30～16:30)

# 山の暮らし

期間：令和4年12月10日(土)～令和5年1月29日(日) 休館日：12月28日～1月1日

## 序章 花巻を囲む山々

花巻の西方に位置する奥羽山脈。その渓谷沿いには温泉が湧き出でる温泉郷があり、周辺は自然公園に指定されています。また、宮沢賢治の童話「なめとこ山の熊」の舞台となったなめとこ山があるのもこの地域です。

そして、東には1000メートル級の山々が連なる北上高地が広がっています。北上高地の最高峰、早池峰山(1917m)は花巻市、遠野市、宮古市の境界に位置し、周辺が早池峰国立公園に指定されています。

私たちは、こうした山々から、豊かな水や食、山林資源といった恵みを楽しんで暮らしています。

## 第1章 「木を切る」

花巻は古くから山林資源に恵まれた土地です。山主や建築主、大工などから依頼を受けた<sup>そま</sup>山子<sup>やまご</sup>と呼ばれる林業従事者によって伐採された木材は、建築用材や薪炭などに使用されまし



▲「なめとこ山」が記載されている絵図  
(稗貫郡下シ沢鉛村豊澤村山絵図写/館蔵)

た。木を伐採する以外にも、山林資源を守るために枝打ちや間伐、植樹なども行いました。

作業の際に5～6人の組を作り、晩秋から春先にかけて山小屋で共同生活を送ることもありました。

## 第2章 「動物を狩る」

かつて、花巻周辺でも狩猟を行う人々がいました。山々に生息する、クマやカモシカ、ノウサギなど様々な動物が狩りの対象で、食用のみならず、生薬として内臓が利用されたり、毛皮が売られたりしました。

このような狩りを生業とする人々を「マタギ」と言います。花巻周辺では、「鉄砲打ち」<sup>やまだち</sup>「山立」などとも呼ばれており、藩政期には熊の肝や皮を献上していたことが分かっています。



▲ツキノワグマはく製  
(旧花巻歴史民俗資料館蔵)

## 第3章 「炭を焼く」

現在のように電気が各家庭を通り、電化製品が普及する以前は、火や熱源に木炭が多用されていました。

花巻周辺でも多くの木炭が作られました。なかでも、大迫町は外川目村や内川目村で生産さ

れた木炭の集散地でしたが、昭和14年には年間12万俵が大迫町に集まったといわれています。

炭焼を行う人々は、山に炭焼小屋を作り、寝泊まりしながら作業を行いました。出来上がった木炭は、炭スゴ（炭俵）に詰めて出荷します。この炭スゴを編む作業は女性たちの仕事でした。

## 第4章 「鉱石を掘る」

岩手県内では、古来より多くの鉱山が操業していました。

東和・大迫地域でも多くの金山が見つかり、特に東和町田瀬の黄金山鉱山では、大量の金が産出されました。

また、豊沢地区にあった鶯沢<sup>うぐいすざわこうざん</sup>鉱山では硫黄の採掘がおこなわれました。大正時代に入ると、1,500名もの従業員を抱えるようになっており、巡査派出所や分教場が作られるなどの盛況ぶりでした。

## 第5章 「ダムをつくる」

山に降った雨は川となり平地へと流れ出ます。しかし、大雨により洪水が起きたり、逆に日照りによって生活のための水が不足したりすることもあります。こういった問題の解決のためにダムが建設されました。

花巻周辺の山間部には、田瀬ダム、豊沢ダム、早池峰ダム、葛丸ダムの四つのダムが造成されました。これらのダムは、洪水調整や、灌漑のための貯水、発電など様々な働きがあり、私たちが豊かで安全な暮らしを送るために欠かせない存在となっています。

一方で、こうしたダムの建設のために居住地の移転を余儀なくされた人々がいた事を、忘れることはできません。そこには、山で暮らす人々の歴史がありました。



▲工事中の田瀬ダム（旧東和ふるさと歴史資料館蔵）

### ★遊んで学ぶおもちゃコーナー

期間中、博物館のエントランスに「花巻おもちゃ美術館」のおもちゃコーナーを開設。

国産や県産の木材を使用したおもちゃで遊ぶことができます。

（学芸調査員 松橋香澄）

### 同時開催

#### 特別巡回展示 土木学会推奨土木遺産 北上川5大ダム3D模型・パネル展

令和3年に北上川上流総合開発ダム群が土木学会推奨土木遺産に認定されました。

これを記念し、国土交通省東北地方整備局北上川ダム統合管理事務所が企画する5大ダムの3D模型、パネル等の巡回展示を行います。

### 関連イベント

#### ○ギャラリートーク

日 時：12月17日（土）13：30～

1月21日（土）13：30～

場 所：花巻市博物館 企画展示室

※申込は不要ですが入館料が必要です。

# 活動レポート

花巻市博物館の学芸係と市史編さん室には、現在7名の職員が在籍しています。その仕事は調査研究、展覧会企画準備、資料整理作業、教育普及活動などなど多岐に渡りますが、今回はテーマ展の開催準備を例に、その仕事の一部をご紹介します。

## ○展覧会企画の立案と準備

最初に、学芸員がそれぞれの研究をもとに展示の企画を考えて開催要項を作成します。その後、展示資料の選定、展示レイアウト、解説パネルやキャプション用の原稿、ポスターの作成を行います。他館との資料借用交渉や広報物の発送準備、業務委託の契約事務等も学芸員自身で行います。



↑担当学芸員力作のポスター

## ○パネルの製作

パネルに貼り付ける紙を印刷し、パネルの土台に貼り付けてから、1枚ずつカッターナイフで切って、解説パネルやキャプションを作成します。カットするパネルの枚数は展覧会の規模にもよりますが、1回の展示で100枚を超えることも少なくありません。

## ○展示ケースの修理（車輪交換）

使用する展示ケースの車輪が数台分壊れていました。そのような時は自分達で車輪の交換を行います。



## ○展示ケース&移動式壁&演示台の配置作業

担当学芸員が作成したレイアウト案を基に、皆で力を合わせて展示室の移動式壁や、展示ケースを移動させます。また、展示ケース内にサイコロと呼ばれる木製の演示台も運び入れます。壁へのパネル類の打ち付けや重量のある物の運

搬、収蔵庫から資料を運び出す作業などは、展示業者に委託して手伝ってもらいます。



## ○資料の陳列

展示室のセッティングが終わったら、資料を1点1点並べていきます。

演示具を活用し、資料の見え方にも気を付けて展示します。

資料の展示は、展示業者に手伝ってもらうこともあります。



## ○照明の調整

資料やパネルの展示作業が終わったら、最後に展示室の照明の調整をします。

解説パネルや展示資料への光の当たり方などを1つ1つ確認していきます。高所作業となるため、必ずヘルメットを被り、複数人で作業に当たります。



## ○配布資料の作成とポスター印刷

展覧会で配布する資料を作成して印刷します。また、ポスターの印刷とカット作業も行います。出来上がった配布資料は展示室入口に設置し、ポスターは関係者や市内外の施設へ発送する手配をします。

今回はテーマ展の企画から展示室を完成させるまでの仕事についてご紹介しました。博物館での仕事を紹介することで、1人でも多くの方に花巻市博物館のことを知ってもらえたら光栄です。今後も活動レポート内で、花巻市博物館の様々な取り組みをお知らせしたいと思いますので、どうぞお楽しみに！

(学芸係 小田島智恵)

館長  
コラム

縄文土偶

令和3年7月、一戸町の御所野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコの世界遺産に登録された。1万年以上にわたって継続した狩猟・漁労・採集を基盤とした定住生活と、そこで育まれた複雑な精神文化が評価されたものである。

とくに、縄文人の精神文化で強調されているのが「土偶」の存在である。土偶は、縄文時代全期を通じて作られた土製の人形で、その用途には諸説あるが、豊饒や安産などに関連した祭祀用具ではないかと考えられている。

江戸時代から好事家の間では有名な考古遺物の一つであり、土偶に関する日本最初の記述も、やはり北東北であった。弘前藩の『永禄日記』（元和9年）には、「青森近在之三内村に小川在、此川より出候瀬戸物大小共に皆人形に御座候」とあり、この「人形」が土偶と考えられている。もちろん、三内村には世界遺産登録の中心となった三内丸山遺跡があるため、さもあらなと思う。

最近、江戸時代末期から明治時代にかけて全国津々浦々を放浪し、各地の習俗や情景などを描いた養虫山人（みのむし・さんじん）の足跡をまとめた『養虫放浪』（国書刊行会）という本が出版された。養虫山人（本名・土岐源吾）は、美濃（岐阜県）出身で、画家であるとともに造園家であり、古物収集家でもあった。北東北が気に入って何度も足を運び、明治17年と明治20年には青森県の有名な亀ヶ岡遺跡を発掘して絵日記も残している。とくに興味深いのは、縄文ファンならずとも一度は目にしたことがあると思われる、東京国立博物館所蔵の伝亀ヶ岡出土の遮光器土偶が、この時に養虫山人が掘り出したものではないかと紹介されていることである。

この逸話は、土偶研究者の間では知人ぞ知る話なのだが、いつか証明できる文書や絵画が見つければ面白い。養虫山人が生涯の夢としたのは、日本中の珍品・古物を集めた「六十六庵」という博物館を故郷に設立することであった。その夢は果たせなかったが、博物館づくりに関わった先人としても、養虫山人への興味は尽きない。

なお、話題として取り上げた土偶の出土数全国一位は岩手県。その約1/5は「花巻市」から出土していることを記して終わりたい。（館長 中村良幸）

行事予定 令和4年12月～令和5年3月

【企画展示室】

- 共同企画展ぐるっと花巻・再発見！「山の暮らし」  
会期：12月10日（土）～翌1月29日（日）  
（会期中12月28日～翌1月1日は休館）
- テーマ展「大集合！花巻人形展」  
会期：2月18日（土）～5月8日（日）  
（会期中無休）

【ワークショップ】

- ◇花巻人形絵付け体験  
日時：3月26日（日）  
定員：15名 ※要申込  
費用：1,600円～  
会場：花巻市博物館 講座・体験学習室  
※2月26日（日）より受付を開始します。

【講座】

- ◇館長講座-3「花巻の雛人形を見る  
～『宿場のひなまつり』に見る雛の歴史～」  
日時：2月25日（土）13:30～15:00  
定員：30名 ※要申込  
費用：無料  
会場：花巻市博物館 講座・体験学習室  
※1月25日（火）より受付を開始します。
  - ◇特別講座「花巻人形の研究史にみる評価と今後の課題」  
日時：3月4日（火）13:30～15:00  
※詳細はP3 関連イベントをご覧ください。
  - ◇学芸員講座③「花巻人形—その特徴について—」  
日時：3月11日（土）13:30～15:00  
定員：20名 ※要申込  
費用：無料  
会場：花巻市博物館 講座・体験学習室  
※2月11日（土）より受付を開始します。
- ※ワークショップ、講座ともに詳細につきましては、博物館へお問い合わせください。

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松 26-8-1  
電話：0198-32-1030 FAX: 0198-32-1050  
開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで  
休館日：12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

※（ ）内は20名以上の団体割引料金です。  
※割安な近隣4館共通券もあります。  
※特別展示を行う場合、別に入館料を定める場合があります。

交通案内

- バス／新花巻駅→賢治記念館口  
岩手県交通 土沢線 イトーヨーカドー行…約5分
- 花巻駅→賢治記念館口  
岩手県交通 土沢線 土沢駅行…約20分
- 車／花巻空港ICより…約10分
- 徒歩／新花巻駅より…約25分



URL: <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1008981/index.html>

# 花◊博 コレクション

Hanahaku collection



(写真左:長さ 2.0～3.0cm 前後、幅 0.8～1.2cm 前後 写真右:長さ 1.9～3.9cm、幅 1.9～4.2cm)

## 似内遺跡出土の土鍾

土鍾は、大昔の漁網（魚を捕るための網）の先端に付けられたおもり鍾とされます。写真の2種類の土鍾は、花巻市上似内にある似内遺跡から出土しました。

出土した土鍾のほとんどが、平安時代（9世紀）の住居跡（たてあなたてものあと 竪穴建物跡）から見つかっています。これらは土製で、中心には孔が開いています。出土状況で、一列に連続していたり、一まとまりになる箇所がみられることから、孔には紐状のものが通され連結していたと考えられます。

写真左側の小型土鍾は、平成10年（1998）に行った花巻市教育委員会の発掘調査で346点、写真右側の土鍾は、平成10年から平成11年（1998～1999）の公益財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの発掘調査より94点いっかつ一括で出土したものです。

このような一括出土という事例は珍しく、市内の遺跡はもとより県内でも稀少です。これまで似内遺跡では平安時代の住居跡が34棟確認されており、9世紀代を中心とする集落であったことがわかっています。当時の水産食料の獲得方法や、自然堤防上に立地し河川に面した古代集落におけるぎょううてき漁労的な生業風景を考える上で注目される遺跡です。

(市史編さん室 畠山滉平)